

就業形態からみた産業別の就業者の動向

- ① 就業者は、経済の拡大につれて増加してきたが、1997年をピークに若干減少している（図1）。その内訳を見ると、非正規雇用が増加する一方、自営等が減少。正規雇用は1997年をピークに山形に推移している。
- ② 就業形態ごとに産業別の推移をみると、
 - ・ 正規雇用は、「製造業」「建設業」「卸売・小売業、飲食店」で各ピークから100～300万人減少、「医療、福祉」で87年から200万人増加（図2）、
 - ・ 非正規雇用は、87年から「卸売・小売業、飲食店」で300万人、「サービス業」「医療、福祉」でそれぞれ200万人増加（図3）、
 - ・ 自営等は、87年から「農林漁業」「卸売・小売業、飲食店」でそれぞれ200万人、「製造業」で100万人減少している（図4）。

図1 就業者の内訳と推移（就業形態別）

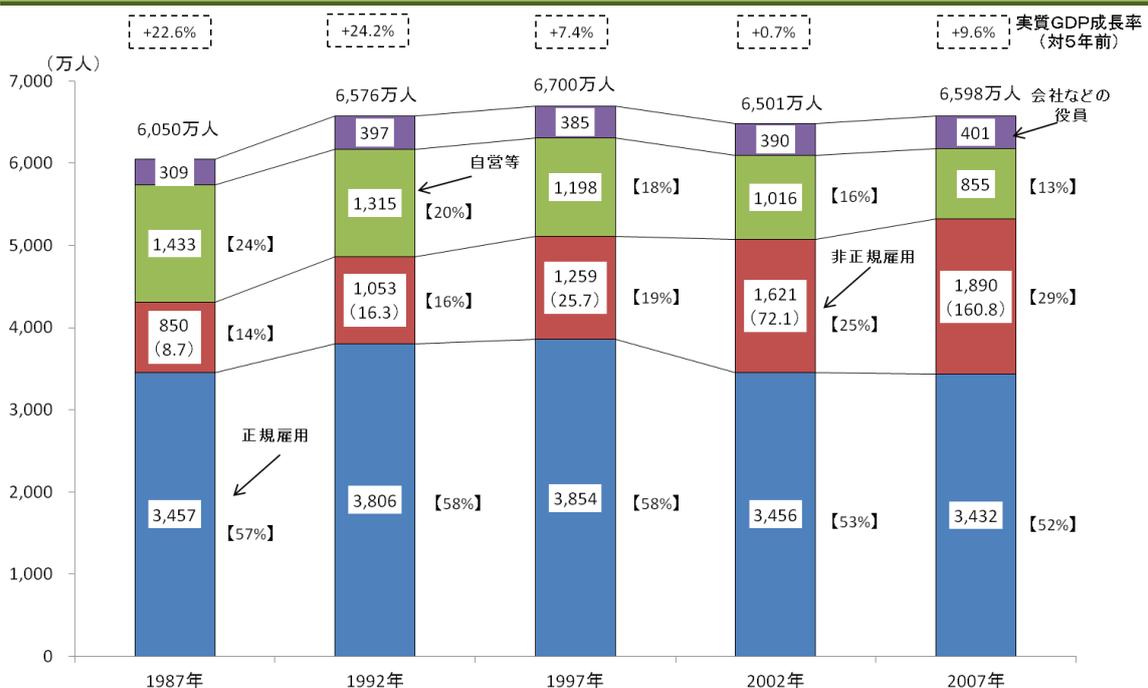


図2 正規雇用労働者（産業別）

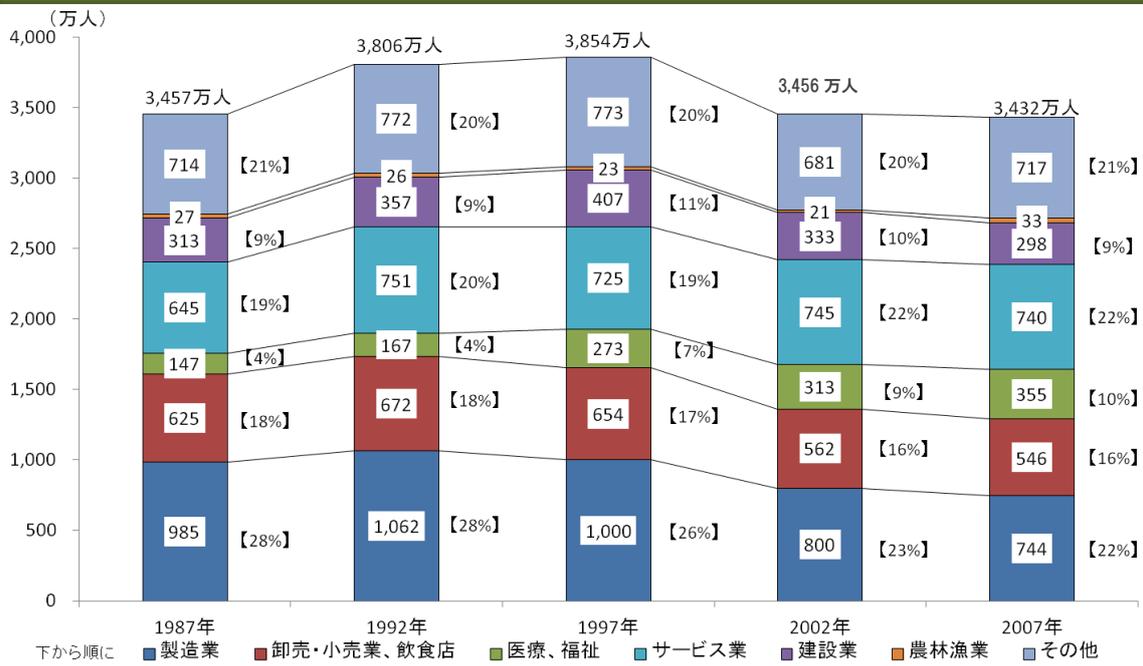


図3 非正規雇用労働者（産業別）

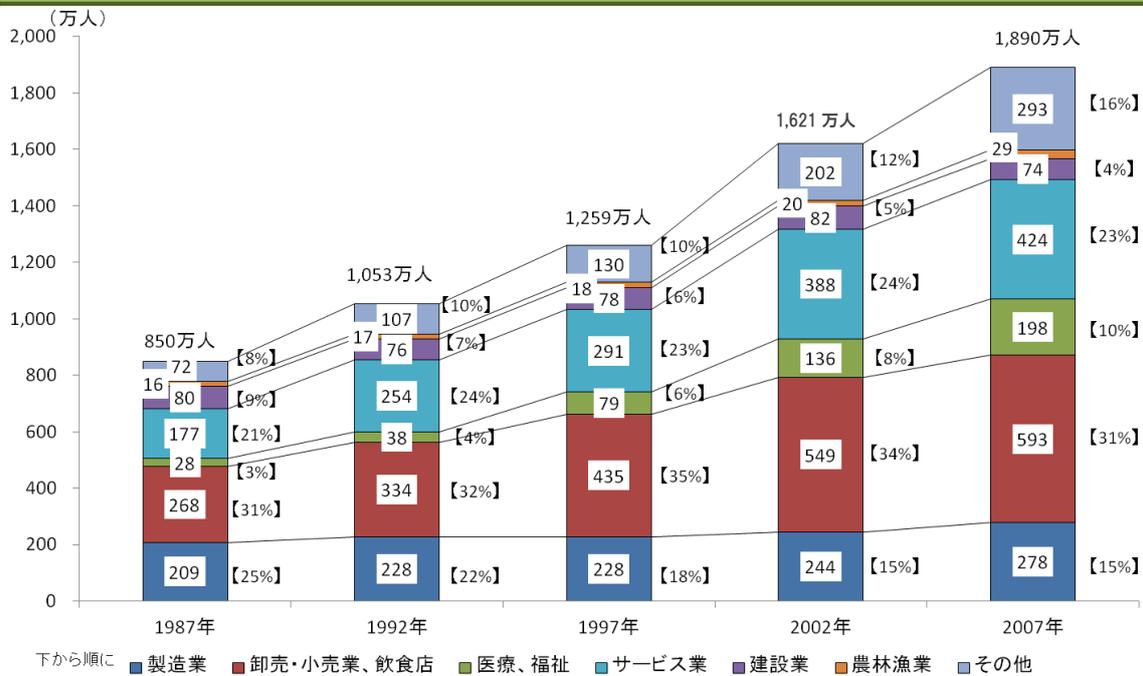
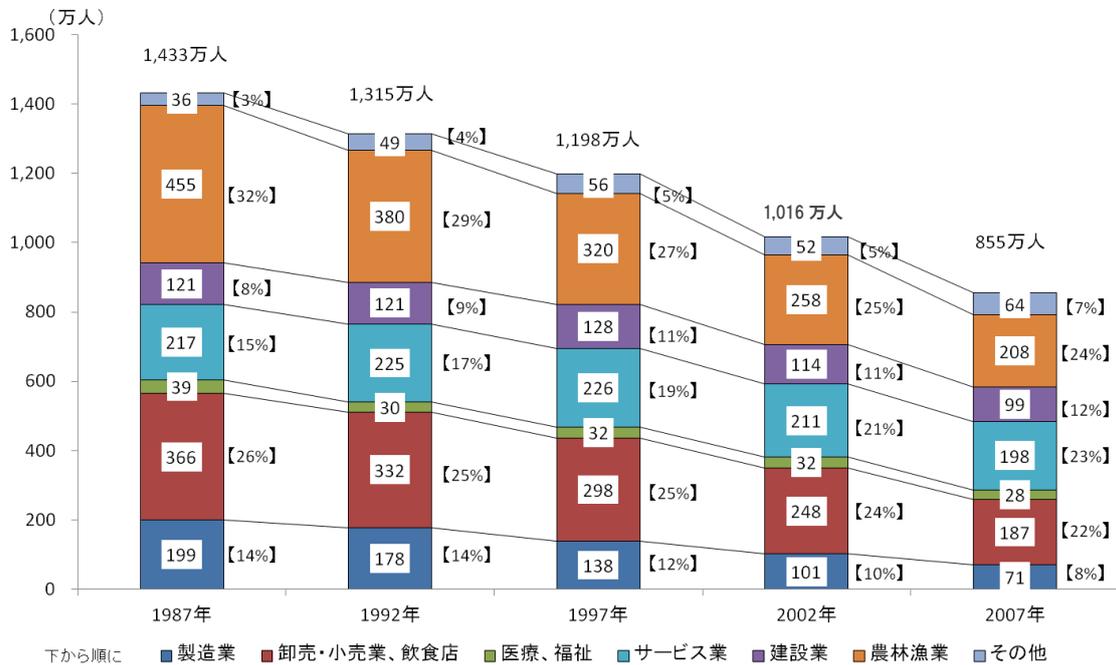


図4 自営等（産業別）



（備考）

1. 総務省「就業構造基本調査」の「有業者」により作成。
2. 非正規雇用は「パート」「アルバイト」「労働者派遣事業所の派遣社員」「契約社員」「その他」の合計。図1の非正規雇用の（ ）の数字は、派遣社員の数（万人）。図3において派遣社員は1997年までは派遣元事業所、2002年以降は派遣先事業所の産業分類。
3. 「自営等」は自営業主、家族従業者の合計。
4. 【 】の数字は、就業者全体に占める割合。
5. 図2から4までの「医療、福祉」は、1987年、1992年は「医療業」、1997年は「医療・保健衛生」と「社会保険・社会福祉」の合計。2002年、2007年の「サービス業」は、通信業以外の「情報通信業」、「宿泊業」、「教育、学習支援業」、「複合サービス事業」、「サービス業（他に分類されないもの）」の合計となっているなど厳密な比較はできない。

問い合わせ先
 職業安定局派遣・有期労働対策部企画課
 吉田 慎 直通：03-3595-3352